

## 資源・素材学会九州支部 若手研究者及び技術者の研究発表会 後藤さんと三橋さんが Presentation Awardを受賞。

6月3日（金）に資源・素材学会九州支部で、平成28年度「若手研究者および技術者の研究発表会」行われ、福岡工業大学の大学院生の後藤 葵さんと三橋 向輝さんの二人が最優秀であることが認定され、Presentation Awardを受賞いたしました。二人は今春入学したばかり、修士課程の一年生です。Best Presentation Awardが1人、Presentation Awardが6人という今回の受賞者は、福岡工業大学の二人以外はすべて、国公立大学という中での受賞でした。



生命環境科学専攻生命環境科学科1年 後藤 葵さん



生命環境科学専攻生命環境科学科1年 三橋 向輝さん

北山研究室の後藤 葵さんの研究発表は「高熱伝導窒化ケイ素セラミックスの開発—混合溶媒の影響」というテーマですが、後藤さんによると、電気自動車や太陽電池等の大電力を扱う半導体素子（パワーエ）用の放熱基板用途に大変期待されているセラミックスであり、今回の発表は、窒化ケイ素原料粉末を混合する際の溶媒が粉末と反応し、結晶中の酸素量が増加して熱伝導率を悪化させるという内容だそうです。現在企業との共同研究に参加しており、将来の実用化が楽しみと、笑顔で語ってくれました。

三田・桑原研究室の三橋 向輝さんの研究発表は「水産廃棄物由来のコラーゲンおよびゼラチンの抽出法とその特性に関する研究」こちらはこれまでに破棄されてきた有機未利用資源に着目、たとえば、魚の皮、鱗、骨などからコラーゲンやゼラチンを抽出して、化粧品や医薬品などに応用していくというリサイクル工学の一環です。

研究者として、新しいスタートを切った二人にとって大変、幸先の良い受賞です。これからの二人に大いに期待しましょう。